

# たいにいい・ぼっくすつうしん

Vol.104

令和5年  
11月15日

## 親の悩み、子知らず②

11月2日、当社法人として初めてのグループホーム見学会を開催しました。開催したと言っても、株式会社 Yellows の代表である横内さんにはほとんどのことをお任せし、打ち合わせもさぼりせず、事業所としては参加者数を伝え、保護者からの質問を受けて「ご回答、お願いします！」と頼むだけの立場でした。そんな突然の振りにも関わらず、一切嫌な顔をせず、快く、丁寧に説明会をしてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

横内さんと関係が繋がったのは、コロナ禍になる前のことです。純粋に、地域の福祉を発展させたい、安心あるものにしたいと“志にサイズ感のあるひと”がいらっしゃり、その方が不定期に開催している法人同士の交流飲み会で知り合うことができました。質の高い支援を構築するために、福祉サービスにおいては協力関係が非常に大切で、支援者側もその重要性を深く理解しています。ただし、“どことでも”というわけにも行かず、福祉の理念や価値観に共感と共有ができない場合、支援に一貫性を欠いてしまいます。

横内さんは最初の自己紹介で、自身にも障がいを抱えた兄がいて、支援者によって本人の生活や状態に与える影響の違いに驚き、福祉に興味を持つきっかけとなったことを語りました。そして、入所施設の国立秩父学園での学びを経て、神奈川で大きな規模の社会福祉法人で勤務経験を積みました。利用者のニーズを充分に理解できていない人や支援者としての立場を持たない人が、運営や支援を考えることに、大きな組織ではやむを得ないことと理解はしますが違和感を持ちます。自身で設立する決断をしたと案内してくれたグループホームは、定員10名に対して、浴室が3つ、トイレが4つ、備えられています。入浴は、一人が使用を終えたらお湯を入れ替え、清掃を行った後に次の利用者が入ります。歯磨きは、毎日フロスの仕上げをします。歯磨きは施設の支援レベルの物差しとよく言われますが、毎日のフロス仕上げができていない施設はどれほどあるでしょうか。そして、先月の通信で触れた入居のタイミングについて、「できるだけ早いほうがいい。年齢が若いと生活になじむのが早く、例えば、居室から歯ブラシセットを持って洗面所に行くなど、ホームの生活スタイルも理解する。高齢になってからの入居は、やっぱり自宅に戻りたい気持ちがでる。」と話してくれました。また、グループホームの需要と供給のバランスに関する質問回答では、「空き状態のホームもあり、いまは入居が難しいわけではないです。ただ、外見がよくても、支援がよくないホームもあることが事実で、それについては、いまからアンテナを張っておくことが大切です。」と、時折される虐待報道とは異なる側面の福祉の課題に触れ、支援者側にとってはつき刺さる言葉でした。

見学会終了後、参加した保護者の方々は、我が子の将来について感情を巡らせ、難しさと希望が入り混じったものとなりました。グループホームを見るのが初めての保護者の中には、「最初にいいホームを知ってしまったから、探すのが難しいわ」といった感想もありました。今回のグループホーム見学会は、単なる保護者への情報提供だけでなく、地域福祉の実態を理解する機会となりました。また、支援者同士が連携し、地域全体でより良い福祉環境を築くために協力する重要性を実感しました。

たいにいい  
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております。

12月の予定

クリスマス会

(他、冬季長期休暇期間計画書参照)

12月 休業日

2日 3日

9日 10日

16日 17日

23日 24日

29日 30日 31日

